

二一七一番

白露しらつゆと 秋あきの萩はぎとは 恋こひ乱みだれ 別わくこと難かたき  
我が心あこころかも

二一七二番

我がやどの 尾花をばな押しなべ 置おく露つゆに 手て触ふれ  
我妹わぎもこ子 落おちまくも見みむ

二一七三番

白露しらつゆを 取とらば消けぬべし いざ子こども 露つゆに競きほひ  
て 萩はぎの遊あそびせむ

二一七四番

秋田あきた刈かる 仮廬かりほを作り 我わが居をれば 衣手ころも寒さむく  
露つゆそ置おきにける